

中・四国地方における地域間の連結構造

岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 内田和子

准教授 北川博史

(主要目次)

- ・ 地域間の結合関係に関する従来の研究
- ・ スーパーマーケットの店舗展開からみた中・四国地方における地域間結合
- ・ 進学移動からみた中・四国地方における地域間結合

(研究報告書のポイント)

本研究は、中・四国地方という地域が、現在、どのような地域間の連結構造を有しているのか、すなわち、どのように関係しあっているのかを明らかにする。結合関係を示す指標としては、スーパーマーケットの店舗展開と進学移動に注目して地域間結合の関係性を明らかにし、中・四国地方の地域間の連結構造の実態を捉える。

- 中・四国地方におけるスーパーマーケットの店舗展開を本社所在地別に分類して検討した結果、各県ともに隣接県との比較的強い相互の結合関係がみられることが明らかとなった。また、中国地方の諸県は四国地方の諸県との関係が弱いのに対し、四国地方では香川県及び愛媛県から広島県あるいは岡山県への強い結合関係が存在し、特に香川県と岡山県との結合関係は強固なものといえる。
- 瀬戸大橋開通前と開通後の進学移動パターンの変化、特により大きな影響を受けたと考えられる岡山県及び香川県を中心に分析を行った結果、1990年以降、進学移動に関しては流動性が高まり、地域間の結合関係が強化されてきたと言え、中国地方から四国地方への移動流が顕在化するとともに、その逆ベクトルである四国地方から中国地方への移動流も卓越したものとなった。
- 2つの分析結果から共通して得られた結論として、中国地方と四国地方は全く関係性を有しないということはないという点である。分析結果は、中国地方と四国地方との間には近接する地域間の複雑な結合関係が存在することを示しており、中国地方と四国地方がそれぞれ独立した圏域を有し、別々のシステムを構築しているとは考え難い。とはいうものの、全ての地域が相互的に結合関係を有しているとは必ずしも言えず、一部の地域間において関係性が醸成されていると考えられる。